

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------|----|----------------|
| ○事業所名 | こどもプラス千歳教室 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和 8年 1月 26日 | | ～ 令和 8年 2月 10日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 14 | (回答者数) 14 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和 8年 2月 20日 | | ～ 令和 8年 2月 20日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 7 | (回答者数) 7 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和 8年 2月 28日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 広い空間(面積、吹き抜けがある)・活動スペースがニーズに合わせて十分に確保されている。 | からだを動かすスペースと、座ってテーブルや床で遊べるスペースがバランスよく作れ、集団での遊び・活動も個々で楽しむためのスペースも事業所移転前と比べ、十分にとれるようになりました。 | スペースを有効活用しながら、集団で遊べることも増やし人との関わり(お友達同士)のきっかけを作ったり、遊びが広範囲になり、目が行き届かないことでトラブル回避が難しくならないように、工夫した支援が必要となります。 |
| 2 | 児童と関わる仕事に従事しての経験、事業所での経験も長い職員が多い。 | 経験を踏まえてスキルに合った業務、研修参加も積極的に行いながら、支援に関して見直したり、状況を究明できる環境が長く同じ職員で続けられることで、支援の質の向上・利用されている方への安心感につなげていけるように、支援に入る時間以外の業務から丁寧に行っています。 | 支援者としてより良い支援につなげていくための意見を出したり、アイデアを出し合いながら、支援者自身の仕事に対するモチベーションの維持・さらなる向上ができるような環境作りをし、利用されている方にとって不安を感じさせないような体制作りをしていきます。 |
| 3 | 長期休み・土曜日のイベント実施 (外出、買い物、施設見学、室内でのクッキング) | 事業所内での活動だけでなく、公共施設の見学や買い物を通しての学習を通してさまざまな経験ができるように企画をしています。また、ご家庭でのお手伝いやコミュニケーションにもつながるようクッキング等も安全に配慮しながら挑戦する気持ちにつなげ、成功体験を積める内容を提供しています。 | 保護者の方々も参加できるような企画を考え、支援の場と一緒に入りながらお子さんの頑張りや喜びを間近で感じられるような計画をしていきたいと思っています。また、地域交流も図りながら、近隣住民の方々に対して療育活動に目を向けていただけるような働きかけをしていきます。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 利用者の方々一人一人とのコミュニケーションや相談支援に対して十分に対応できていない点。 | 相談支援に充てる時間の確保がなかなかできないこと、関係機関での情報共有が機会としては少ない。積極的に自発的に相談をしていただける保護者の方が増えていて、そういった姿勢によって共有できていることは多いが、こちらからの歩み寄りが結果として少ない印象を受けます。 | 事業所の中でも相談支援専門までは難しくとも、そういったスキルを全体的に向上させていくことが大切であり必要なことと感じます。児童に対しての支援にも活かされ、家族支援にも事業所全体としてさらに大きくアプローチをかけられることが今後の事業所としての理想形です。 |
| 2 | 事業所移転に伴い、送迎が上手く回らなくなってきている。 ※今後さらに検討が必要な状況。 | 極力乗車する時間を短くし、事業所内で過ごす時間に充てていきたいという考えはあるが、事業所から全体的に送迎先が遠くなってしまい、現在の体制で何とか凌いでいる状況です。 | 小学校や児童クラブとの連携をとりながら、送迎の状況に合わせてそれぞれの機関にも協力を依頼していきます。また送迎状況を整理しながらご利用の予定を保護者の方と調整し連携・協力をお互いに行いながら進めていきます。 |
| 3 | | | |